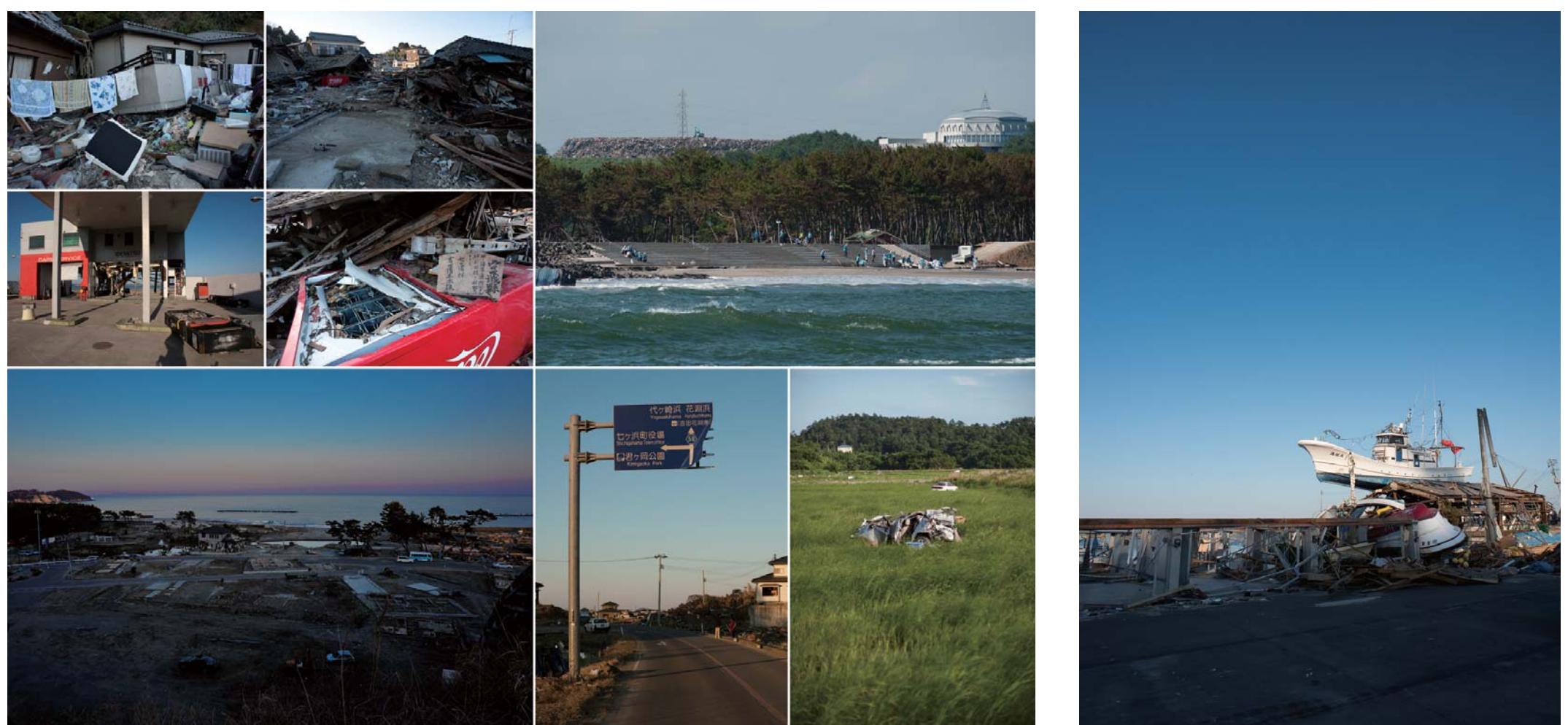


「七の心をつなぐ」をキーワードに「七里ガ浜発 七ヶ浜復興支援隊」が発足！ 2011-5



★七ヶ浜支援隊とは・・・

鎌倉市七里ガ浜および近隣地域住民の有志による団体

★活動の沿革

2011年4月10日

七里ガ浜自治会・商店会主催による「東日本復興支援の集い」を開催
(募金活動(421,698円)・物資支援(メッセージ入りティッシュBOX 314個))

2011年4月30日

特定非営利活動法人ウォーターリスクマネジメント協会の協力を得て、
上記にて集めた物資を七ヶ浜町など直接配布

2011年5月末日

「七の心をつなぐ」をキーワードに「七里ガ浜発 七ヶ浜復興支援隊」を発足

2011年5月末日

七里ガ浜町内会、七里ガ浜自治会、七里ガ浜2丁目自治会が後援
・以降毎月1回のペースで七ヶ浜町にて瓦礫撤去などの支援活動を行っている

(写真は4月～8月頃の宮城県七ヶ浜町の様子)



第1回、第2回支援隊活動

2011-6-18、7-17

2011年6月18日 第1回支援隊活動 50名参加 七ヶ浜海岸（小豆浜、表浜）を清掃

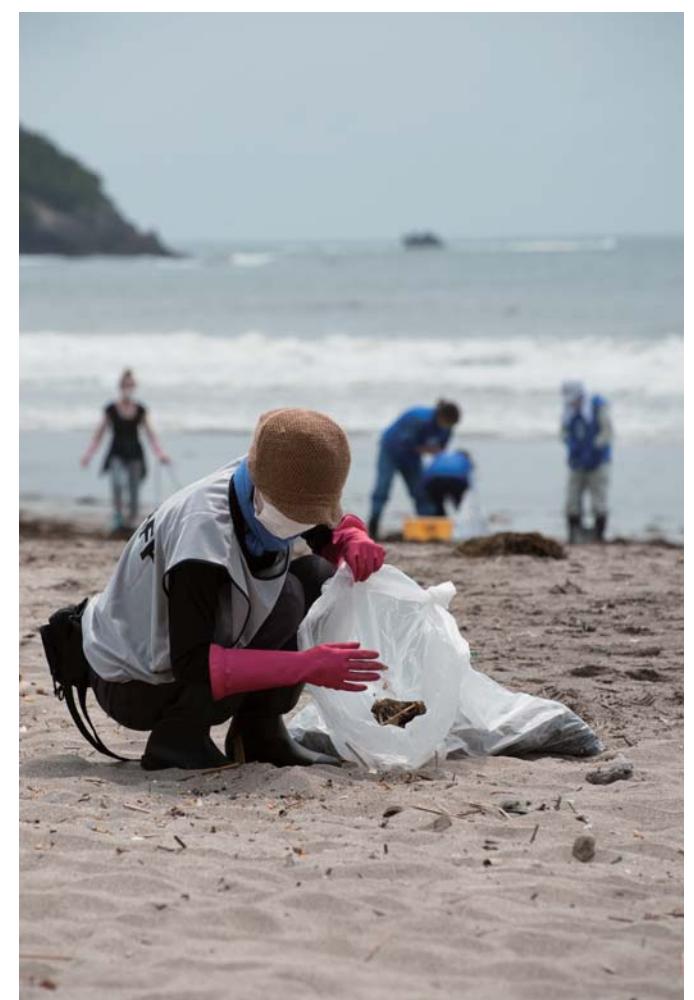
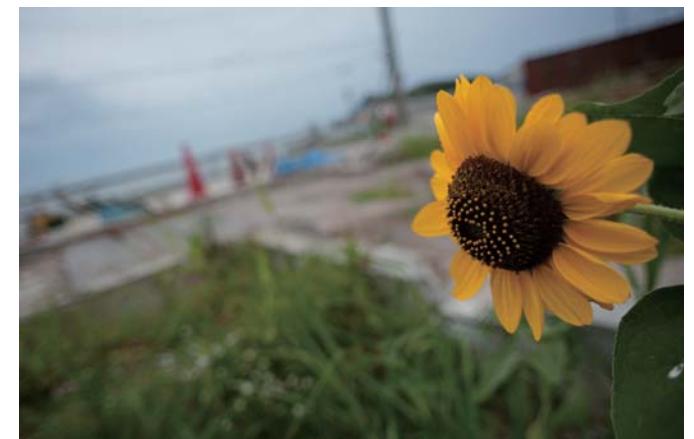
2011年7月17日 第2回支援隊活動 55名参加 七ヶ浜海岸（表浜）を清掃

参加者は七里ガ浜の住民を始め周辺地域の町内や鎌倉近辺に住む方が中心です。

地域住民が中心となって災害支援を行い、地理的状況がよく似た被災地と連携することで災害対策や被災対応、復興活動等に対しての情報やノウハウをもらったり、あるいは活動を通じて発見したり、そしてそれらを地元にフィードバックすることで防災に役立てることにも繋がります。

今回の災害では多くの被害が生じました。

しかしそれを無駄にしないためには、七ヶ浜町の現状や住民の皆さんとの交流などから今後の我々の将来を良くしていくための方法や知識、経験を見つけ、考えていくことが我々のすべきことではないでしょうか。（写真は七ヶ浜町での清掃活動の様子）



七の心をつなげよう！

3自治町内会夏祭り内にて七ヶ浜支援コーナー

2011-8

2011年8月6, 7, 20, 21, 27日

会場の一角に「七ヶ浜復興支援コーナー」を設け、これまでの支援隊の活動報告や募金活動を行いました。

それに併せて宮城県内で撮影された被災地の写真を展示し、鎌倉七里ガ浜に住む町民の方に被災地の現状説明や協力への理解を求めました。

両日とも大勢の町民の方が訪れ、年配の方はもちろん、中学生や小学生の子供までが写真の前で足をとめ、興味深く見ているのが印象的でした。まずは関心を持ってもらい、その気持ちを継続してもらうことが支援隊の活動目的でもあります。それにより、将来への防災意識の向上にもつながるからです。

我々の行っている活動が、将来この子供たちに引き継がれていくとよいと思います。



第3回、第4回支援隊活動

2011-8-28、9-18

2011年8月28日 第3回支援隊活動 50名参加 住宅瓦礫の撤去、仮設住宅にて流し素麺

2011年9月18日 第4回支援隊活動 44名参加 松林倒木の撤去および住宅瓦礫の撤去

8月28日に七ヶ浜町第1スポーツセンター応急仮設住宅駐車場にて流しそうめん。

参加された仮設住宅に暮らす子どもからお年寄りまでが、次々と竹の樋を流れてくるそうめんをとても楽しそうに掬っていました。

夏の日差しがまだまだ強い日でしたが、青い竹に流れる水と冷たいそうめんが仮設住宅の駐車場に涼しさを運んでいるように感じました。

「これまでにも様々な炊き出しが行われたけど流しそうめんは初めてでなかなか楽しいものだ」と、参加したおばあさんが話しているのが印象的でした。

日常とは違う活動をするというのは仮設住宅で暮らす方々にとって新鮮で、どうしても生じてしまいがちな閉塞感をひと時でも払拭できる時間を提供できたのではないかでしょうか。

梅雨前の蒸し暑く小雨の降る中での海岸清掃から始まり、真夏の太陽の下仮設住宅で催された流しそうめんを経て、9月の表浜近くには生い茂った草の間にコスモスの花が揺れています。

「津波で流されたままの住宅跡を見ると当時の記憶を思い出してしまってなるべくきれいな姿に、まるでこれから新しい家を建てる建前のような状態にしましょう。それはこの場所がこれから生まれ変わるために下準備であり、周囲に向けての復興宣言にもなるのです」

七ヶ浜ボランティアセンタースタッフの言葉が、何のために瓦礫の撤去を行うかの意味をよく表していました。何はともあれ、ここからがスタートになるのですね。



2011/8/28



2011/8/28



2011/8/28



2011/9/18



2011/9/18

湘南しらす丼

2011-10-10

2011年10月10日

七ヶ浜サッカースタジアムで開催された「スポーツフェスタで復興まつり」の会場で支援隊によるしらす丼の炊き出しが行われました。

午前11時の炊き出し開始前からテント前には行列ができ、300食分を用意してきたにも関わらず昼ごろにはしらすも白飯も全て無くなってしまうほどの人気でした。

七ヶ浜町の人たちに湘南のしらす丼を知ってもらい美味しく食べてもらうというのが一番の目的なのですが、並ばれていた人の中には湘南近辺に住んでいた方もいて「なつかしい！」という声を聞きました。ご当地の食べ物は味と共にその時の思い出などと一緒に記憶されるんですね。

カレーや豚汁などの炊き出しも必要ですが、出身地方ならではの料理を振舞うというのは地元のアピールにもなりますし、炊き出しを受ける方々にとっても新鮮で気分が変わります。

秋晴れの下、震災により仮設住宅に暮らす方を始め地元の皆さんのが大勢集まり、スポーツの秋、そして食欲の秋を満喫したのではないでしょうか。



第5回、第6回支援隊活動

2011-10-15、11-12

2011年10月15日 第5回支援隊活動 住宅瓦礫撤去、仮設住宅にてベンチ製作、松林清掃

2011年11月12日 第6回支援隊活動 菖蒲田浜松林清掃、仮設住宅にてベンチ製作

湿った松の丸太や枝は結構重いのですが、声を合わせて手際良く、次々に運ばれていく様子はなんだか蟻の行列のようでみると、うちに松林の中がすっきりしていきます。作業の進捗が目に見えて分かると一段とやる気が出るものですね。

支援隊のメンバーや、一緒に現場で作業をしていた福島にあるスーパーの皆さんの中に、大きな声で掛け声を掛けたり合いの手を入れたり冗談を言って笑わせたりする方がいました。その声に付られて周りの人たちも笑顔になり足取りもなんだか軽くなるような気がしました。

以前ボランティア作業中に何度か聞いた「どうせなら楽しくやらないとね」という言葉を思い出しました。

三陸沿岸の松林は防砂林、防風林の役目をなさないほど松の数は大きく減っています。

歯が折れて隙間だらけの安物の柵みたいな状態です。

それでも、清掃が終わりすっきりした菖蒲田浜の松林の中には2メートルくらいに育った若い松がたくさん生えているのが分かります。

数年前に植林した松だそうです。若さ故なのか背が低くやわらかいため波の勢いにも柔軟に対応できたせいなのかそうした若い松は結構残っているのです。

この先まだ十数年はかかるかもしれませんのがきっと元のような松林に戻ることでしょう。



菖蒲田浜がサーファーに開放（2011/11/11）



菖蒲田浜にて松林清掃（2011/11/12）



菖蒲田浜は2011年11月11日、サーファーに開放されました。
これも、8ヶ月間ごつごつと続けてきた海岸清掃活動のおかげなのだと思います。



仮設住宅にてワークショップ（2011/10/15）



七ヶ浜町謡地区仮設住宅（2011/11/12）



第7回支援隊活動

2011-12-11

2011年12月11日 第7回支援隊活動 住宅瓦礫撤去、仮設住宅にてリース制作

湊浜仮設住宅の集会場でのリース作りには仮設住宅に住んでいらっしゃる方も参加され、和気あいあいとした雰囲気の中、3時間で20個以上のクリスマスリースが出来上がりました。

作業中、参加されている仮設住宅にお住まいの地元の方の話を聞く機会がありました。

一見普通に笑ったり冗談を言ったりしているものの、津波の時の状況やその後の話を聞くと大変な経験をされているのが分かります。こういう強さ（と言って良いものか分かりませんが）みたいなものを、災害の経験やその後の生活再建へのノウハウと同様に、我々は現場の方々から学んでいかないといけないのではないかと感じました。

住宅清掃の方は、日差しは暖かいものの遮るものがない現場のため終始吹いている東北の冷たい風に悩まされながらの瓦礫の撤去や除草作業となりました。

やはり作業前と作業後では現場の様子が一変し、「放置された住宅跡」が「新築住宅建設途中の基礎」のように見えるようになります。この変化を実感すると少しくらいの寒さも気にならなくなります。

これまでの大勢のボランティアの皆さんのお活動によって作業場所がどんどん少なくなってきてるのは喜ぶべきことです。宮城県内に1183箇所あった避難所は気仙沼市の2か所のみになっています(2011年12月7日現在)。

それでもまだボランティアの受付は継続していますし、多くの協力が求められています。

これから本格的な冬に入り屋外での作業には厳しく季節になりますが、活動の輪が途切れないとしたいですね。



Photo by YAMAGUCHI TAKAHIRO

七里ガ浜発復興支援隊の方々とは縁あって第1回目の支援活動から一緒に参加させてもらっています。

今回は今まで撮影した支援隊の皆さんの活動の様子をご報告します。

6月に始まった1回目の活動から比べると七ヶ浜町の海や町は見違えるほど綺麗になっています。皆がこつこつと続けてきた成果だと思います。

ブログやホームページなどで東北の様子を紹介、またアジアの国々を旅して撮影した写真と紀行文も公開していますので興味のある方はご覧下さい。

<Profile> 山口貴大／1974生／福井出身／フリーカメラマン

<Mail>kidai_y@hotmail.com <携帯>090-7083-1442

<website>
アジアのかけら



<http://yamaguchikidai.com/>

<blog>
アジアのカケラ

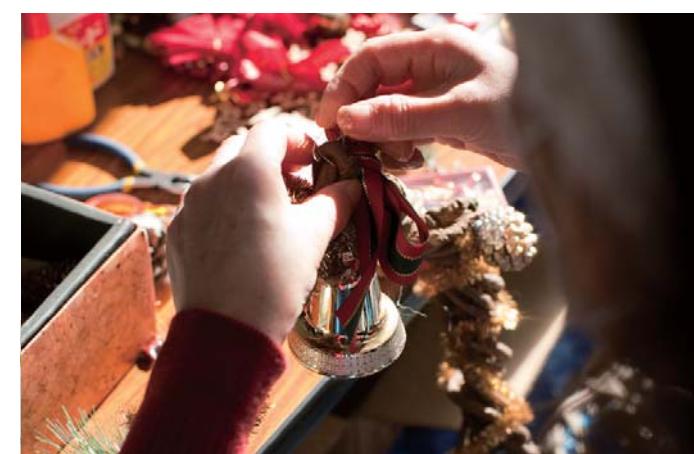


<http://ajikake.exblog.jp/>

<blog>
アジアのカケラ
震災関連記事
まとめページ



ajikake.exblog.jp/14697429/



七の心をつなぐ

七ヶ浜町の仮設住宅脇に作られたスロープに椅子を並べて世間話中。

碎いたピーナツ入りの飴ちゃんを2つもらった。

「津波の時は着の身着のまま逃げて、今着てるのがそれで、これしか服を持ってない」

わはは。

「このおばあさんは逃げてる時・・・・・・(少し下ネタなので内緒です)」

がはははは。

「椅子もっとちょうどいいよ！(先日僕らの仲間が作った椅子を早速使っていただいていた)」

あははは～。

笑顔が絶えない。僕らもつられて一緒に笑った。

太陽は向こうの林に沈む前に雲に隠れてしまい、赤みを帯びた夕闇が昨日より少しだけ早く仮設住宅の周りに訪れ始めていた。

「やっと、こんな風に笑えるようになったのよ」女性の1人が言った。

「そうだ、6か月たってやっとこんな話が出来るようになった」

さっきまで一番よく笑っていたおじいさんが少し真面目な顔をしてそう言った後、また笑った。

七ヶ浜を始めみんなに笑顔になって欲しいから、続けていくんだと思う。

